

# 豊田市障がい者 総合支援センター



豊田市障がい者総合支援センター 活動報告「結 vol.10」を作成いたしました。

総合支援センターでは各施設の取組を一つ取り上げ、2005 年度から「紀要」として紹介していました。2012 年度版からは、手に取っていただきやすい形に一新し、名前も「結」といたしました。豊田市福祉事業団のホームページにも掲載しています。多くの方にご覧いただき、少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。

私たちは誰かとつながって生きています。

ひとりで悲しんでいるとき

誰かに話を聞いてもらえたら、少し楽になるかもしれない

うれしいことがあったとき

誰かに「よかったね」といってもらえたら、もっとうれしくなるかもしれない

ひとりではできないことも

誰かと力を合わせれば、できるかもしれない

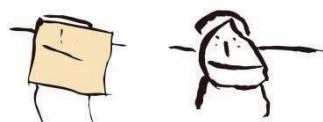
利用者の方と地域の方々が結ばれることで、お互いがハッピーになればいいな  
と考えながら、私たちは毎日の支援を行っています。

私たちの支援を地域の方々に少しでも知ってもらいたい。

その思いを「結（ゆい）」という言葉にのせて発行いたします。

（表紙の題字は、暖 鈴木 桂馬さん）

## 豊田市障がい者 総合支援センター

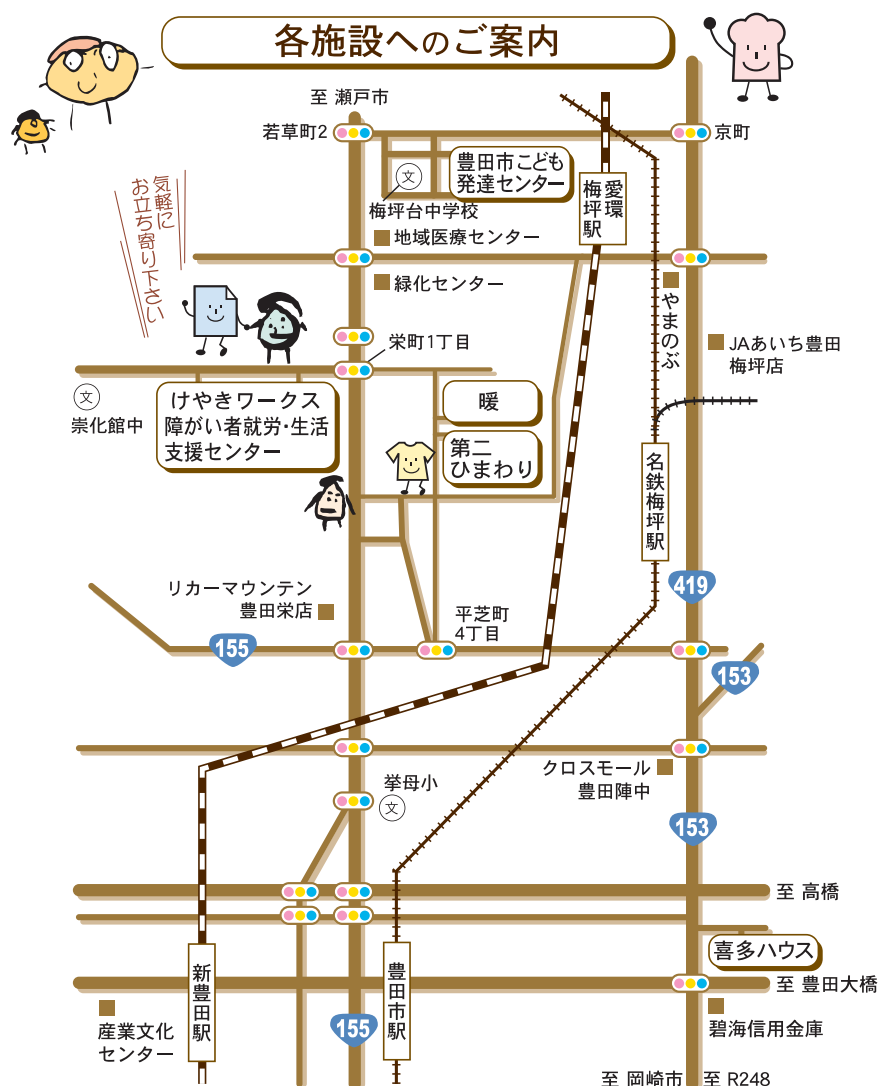


豊田市障がい者総合支援センターは、障がいのある方の自立及び社会参加を支援し、豊かな地域生活の実現を図るため、豊田市が設置した施設です。「障がい者就労・生活支援センター」「けやきワークス」「第二ひまわり」「暖」「たよりん」の5部門で構成しています。

豊田市から指定管理を受け豊田市福祉事業団が、障がい者総合支援法に規定する障がい福祉サービス事業と、国・県及び豊田市から委託された就労生活支援事業などを行っています。

# 目 次

|                          |   |
|--------------------------|---|
| けやきワークス .....            | 1 |
| わんわんジャーキー                |   |
| ～豊田市産の鹿肉を使った完全無添加の犬用フード～ |   |
| 暖 .....                  | 3 |
| コロナ禍の活動                  |   |
| ～3密を回避して季節を味わう～          |   |
| 第二ひまわり .....             | 5 |
| 利用者の方とのコミュニケーション         |   |
| 障がい者就労・生活支援センター .....    | 7 |
| 愛知県障がい者就業・生活支援センター連絡協議会  |   |
| ～ 愛称 アイネス ～              |   |





# わんわんジャーキー

## ～豊田市産の鹿肉を使った完全無添加の犬用フード～

### はじめに

喫茶店 coffee & bakery ZELKOVA 入り口横で販売しているわんわんジャーキーをご存じですか？

わんわんジャーキーは、豊田市産の鹿肉を乾燥させて作る犬用フードです。けやきワークスでは、就労継続支援 B 型事業の仕事のひとつとして、わんわんジャーキーを製造・販売しています。



### はじめり

わんわんジャーキーの製造が始まったのは、平成 21 年です。

この年、前年のリーマンショックにより、自動車関連企業からの下請け作業が激減し、売り上げに大きな影響が出ました。そこで、落ち込んだ売り上げを補うべく、当時増収傾向にあったペットフード産業に注目し、犬用フードを作るわんわんクッキー事業を立ち上げました。

わんわんジャーキーは、この事業で作るフードのひとつとして考案しました。



### 作り方

わんわんジャーキーの作り方は以下の通りです。

①鹿肉を短冊状に切る。



②肉たたきでたたき、薄くのぼす。



③食品乾燥機に並べ、約 1 日乾燥させる。



④袋に 30 g ずつ詰め、封をする。



完成！





わんわんジャーキーには、粉末状のふりかけタイプもあります。わんわんジャーキーそのままだと、小型犬や老犬には硬くて噛み切りづらいという声があり、餌に振りかけられるように開発しました。

## ふりかけタイプの作り方

乾燥させた肉をミキサーで粉末状にする。



筋を取り除く。



30gで  
袋詰めして  
完成！



わんわんジャーキー作りは、利用者の方3名と職員1名で行っています。

利用者の方は、職員が切った肉を肉たたきでたたき、食品乾燥機に並べたり、乾燥させたものを計量器で量って、袋に詰める作業をしています。ふりかけタイプを作る場合は、職員がミキサーで粉末状にしたものから、利用者の方が肉の筋を取り除いています。

はじめのうちは、普段は目にするのことがない鹿肉を扱うことを、不安に思っていた利用者の方もありましたが、今では楽しみながら作業に取り組んでいます。トントントントンドン肉をたたいていく方、ゆっくりゆっくり丁寧に肉をたたく方、作業の進め方は様々ですが、みんな心を込めて作っています。

袋詰めが終わると、わんわんジャーキーはいよいよ店頭に出ます。

わんわんジャーキーの袋に貼る鹿のシールは、職員がデザインしました。そして、そのデザインをもとに、パソコンが得意な利用者の方が、ポップを作りました。

このように、利用者の方と職員が一丸となり、みなさまの大切なワンちゃんに、わんわんジャーキーをお届けしています。



## おわりに

わんわんジャーキー作りで使っているのは、鳥獣被害から田畑を守るため、駆除された鹿の肉です。駆除された鹿の肉を無駄にすることなく、ペットフードを製造・販売することは、利用者の方の工賃向上につながるだけでなく、SDGsの「12. つくる責任つかう責任」「15. 陸の豊かさを守ろう」への貢献にもなります。

これからも、いただく鹿の命に感謝と責任を持ってわんわんジャーキーを作り、さらに多くの方に、私たちの取り組みを知っていただけるよう、販路拡大を目指していきます。

# コロナ禍の活動

## ～3密を回避して季節を味わう～

突然現れた新型コロナウイルス。2020年から感染が拡がり、世の中が重い雰囲気となりました。

手洗い・手指消毒の徹底、マスク着用、3密（密集・密接・密閉）の回避、室内の換気など、感染症対策を徹底して、利用者の方々が活動を楽しめるよう工夫してきました。

3密を回避して継続できた新聞サークルの活動、外出活動が制限される中で季節感を味わう楽しみが広がった創作活動、この2つの取り組みを紹介します。

### 新聞サークル

#### 3密を回避した取材活動で 身近な地域の魅力を再発見！

人気の施設や飲食店を取材する新聞サークルの活動は、利用者の方にとっても人気の活動の一つです。しかし、コロナ禍では、多くの方が訪れる場所への外出は控えなくてはなりません。

3密を避けて取材できる場所は？屋外なら人込みを気にせず取材できるよね…と。普段のウォーキング活動で歩いているコースをゆっくり歩いて、今まで気づかなかった散歩の魅力や散策の楽しみを見つけました。『だんさんぽ』と題して、手書きのマップにまとめて、新聞サークル誌「だんだん」に掲載しました。



春の安長寺（上）  
秋の安長寺（下）



季節ごとに楽しめるポイントも紹介しました。

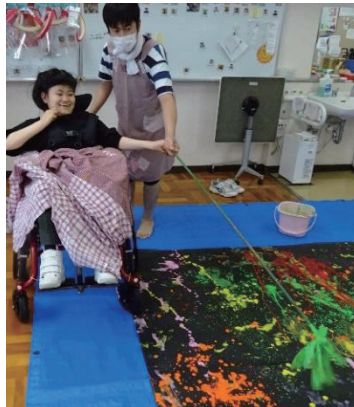




## 季節の創作 外出自粛もなんのその お部屋時間を楽しもう！

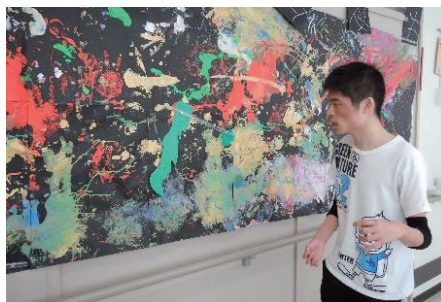
コロナ禍で外出の機会が減り、暖では「おうち時間」ならぬ、「お部屋時間」が増えました。お出かけできなくても、もっと季節を感じられたらと、館内全体を季節の創作物で彩ることにしました。

四季折々のイベントをテーマに、各グループで、その季節ならではの「楽しみ」を探し、アイデアを出し合って創作しました。



「5月はカーネーション、6月はあじさい」  
「夏はダイナミックに花火を作ろう！」  
「クリスマスといえばパーティーだね～」

「ペットボトルの底で  
コスモスができた！」



創作活動中からどうやって飾ろうかと考えたり、館内ウォーキング中に立ち止まって見入ったり、壁いっぱいの作品に会話も弾みました。

お気に入りの作品を見つけて楽しむ人、作品の感想をもらって喜ぶ人、「作る楽しみ」「飾る楽しみ」「見る楽しみ」、ひとりひとりが楽しみ方を見つけて、充実した「お部屋時間」になりました。

## コロナ禍だったから 気づけたこと 楽しめたこと たくさんあったかも！

感染の不安を抱えながら生活されている利用者の方やご家族が、コロナ禍でも安心して暖を利用でき、活動を楽しめるように工夫してきました。残念ながら中止した行事もありますが、今までの活動を見直し、新たに気づくこともありました。人気スポットに出かけなくても暖の周りには楽しめる場所があります。ホールに集まれなくても、暖の廊下で春夏秋冬のイベントができました。これからも、さまざまな制限があっても、利用者の方々が充実した生活を送ることができる取り組みを継続し、新たな発見ができたと思います。



# 利用者の方とのコミュニケーション

第二ひまわりに通う利用者の方は、知的障がいのある方や知的障がいを伴う自閉症の方です。利用者の方の物事の理解の仕方やコミュニケーション方法は様々です。利用者の方お一人おひとりの理解の仕方を把握して、伝え方を工夫します。

例えば、「これから〇〇の活動を始めます」と伝える場合…

- ① 言葉
- ② 絵カードや写真カード
- ③ 実際に活動で使う道具
- ④ 活動の準備を始める

あるいは、①～④の組み合わせで伝えます。



## 支援者が利用者の方に「モノ」を渡して 次の活動を伝える



Aさんは、視力低下が進みあまり目が見えません。視覚で情報を捉えづらいので、物を手がかりに次に何をするのか認識しています。

朝の会の後、グループの出席簿ファイルを事務所に持って行くことがAさんの役割です。

朝の会が終わって、ファイルを手渡されると、Aさんは所定の場所まで歩いて運んでくれます。  
(写真1)

Aさんの仕事は、ボトル缶のキャップ外しです。

カゴの中のボトル缶にAさんの手を誘導すると、Aさんはキャップを外して、外したキャップとボトル缶を隣のカゴに入れてくれます。

最初の頃は、この作業工程を繰り返し手添えで伝えました。今は、作業開始の合図としてボトル缶に触れてもらうだけで、次々と、ボトル缶に手を伸ばし、キャップを外していきます。

(写真2)





## 利用者の方が支援者に「カード」を渡して 自分の意思を伝える



写真3

Bさんは、写真カードで自分の思いを伝えています。

Bさんは、休憩時間になるとCDプレーヤーの写真カードを支援員に渡します。(写真3)

実際に使用している  
写真カード→



写真を受け取った支援員は、CDプレーヤーを用意します。



写真4

Bさんはお気に入りの音楽を聴いて休憩時間を過ごします。(写真4)

以前のBさんは、音楽が聴きたいという気持ちを『Bさん独自の言葉』で表現していましたが、伝わらないことが多く、困っているようでした。

CDプレーヤーの写真カードを作り、Bさんと支援者がカードの受け渡しをし、そのあと、支援者がCDプレーヤーを用意することを繰り返しました。

カードを渡すと、カードの写真と同じものを、カードを受け取った人が持ってきてくれること

が理解できたBさん。Bさんの気持ちを汲み取りやすくなった支援者。笑顔のコミュニケーションが増えました。

## 「らしく生きる」を支える

第二ひまわりでは、利用者の方の「その人らしさ」を大切に支援しています。

利用者の方お一人おひとりの理解の仕方を把握し、伝え方・伝わり方を模索して、コミュニケーション支援をします。「自分の思いが伝わった」「相手の思いが理解できた」という体験を重ねることで、より「その人らしい」毎日が過ごせると思います。

これからも利用者の方の「らしく生きる」を支えられるよう、支援者としてのコミュニケーション能力も高めていきたいです。



# 愛知県障がい者就業・生活支援センター連絡協議会 ～ 愛称 アイネス ～

愛知県障がい者就業・生活支援センター連絡協議会アイネスは、令和元年に発足されました。愛知県内の障がい者就業・生活支援センターや名古屋市委託のセンターによって構成されています。各センターが連携を深め、情報共有や共通する課題の解決を図るための活動をしています。

また、障がい者の就労にかかわる様々な関係機関との連携により、愛知県内の障がいのある方の雇用や職場定着の促進を目指して取り組んでいます。

愛称は、**AI**chi **N**etwork **E**mployment **S**upport の頭文字から **AINES**（アイネス）と名付けられました。

## アイネス役員

- 代表 1 名
- 副代表 1 名
- 会計 1 名
- 事務局長 1 名
- 事務局員
- 顧問 1 名



## 活動内容

- 全体会…全センターの代表者が集まり、本会の目的達成に向けて協議を行う（年 6 回）
- 事務局会議…全体会やその他の運営について協議を行う（年 6 回）
- 研修部会…アイネス会員に向けて研修の企画、運営を行う（年 3 回）
- その他…県内特別支援学校との意見交換会、講師派遣等

## 《障がい者就業・生活支援センターについて》

障がい者就業・生活支援センターは、障がい者雇用の促進を目的に、平成 14 年から国の委託事業としてスタートしました。全国に 338 カ所設置されています。

公共職業安定所、障害者職業センター、行政、地域の福祉施設、医療機関、学校などの関係機関と連携しながら、就職活動や就職後の職場定着支援、社会的自立を図るための生活の支援を行います。

また、企業における障がい者雇用についての支援も行っています。





## アイネス構成機関一覧

⑦西三河北部障がい者就業・生活支援センター  
(豊田市・みよし市が圏域)



- ①尾張西部「すろーぷ」
- ②海部
- ③尾張中部
- ④なごや
- ⑤尾張北部「ようわ」
- ⑥尾張東部「アクト」

- ⑧西三河南部西「くるくる」
- ⑨知多地域「ワーク」
- ⑩西三河「輪輪」
- ⑪東三河北部「ウィル」
- ⑫豊橋

①～⑫は障がい者就業・生活支援センター  
⑬～⑮は名古屋市委託のセンター

- ⑬名古屋市障がい者雇用支援センター
- ⑭障がい者就労支援センター「めいりは」
- ⑮障がい者就労支援センター「めいしんれん」

## \*\* アイネス代表より \*\*

令和4年度アイネス代表

兼 西三河北部障がい者就業・生活支援センター主任 山田 知弘

近年、障がいのある方の働き方は、在宅勤務の広がりや短時間勤務の選択など様々な働き方を選べるように変化してきています。

また、企業においても多様性のある組織づくりと働き手不足解消のため、障がい者雇用への積極的な取り組みが行われています。

アイネス発足以前は、必要に応じてセンター間で情報共有を行う、支援協力をするなどの方法で連携していましたが、愛知県内の障がい者雇用についての一体的な取り組みや、更なる連携を図る必要性を感じるようになりました。各センターからも同様の意見が上がり、様々な機関の方々と連携しながら愛知県内の障がい者雇用をさらに盛り上げていこうという機運が高まり、アイネスの発足に至りました。

現在は、各地域で生じている課題に対してアイネス全体で共有し、解決に向けて取り組んでいます。

障がいのある方がイキイキと働けるように、アイネス構成機関が一致団結していきます。今後ご相談は、お近くの就業・生活支援センターまでお気軽にお問い合わせください。



活動報告 vol.10

「結」

2023年 3月発行

豊田市障がい者総合支援センター

<http://www.fukushijigyodan.toyota.aichi.jp/>